



# 学校だより

令和7年9月24日

10月号

学校教育目標  
～生き生き日枝っ子～

横浜市立日枝小学校

## さらなる「地域に開かれた学校づくり」に向けて

副校長 石川 和之

早いもので今年度も半年が過ぎ、10月10日には前期の最終日を迎えます。マラソンでいえば「折り返し地点到達」といったところでしょうか。夏休み明けの子どもたちは次第に学校生活のリズムを取り戻し、学びにも意欲的に取り組む姿が多く見られます。日々の学校での様子を「すぐーる」のタイムラインに投稿していますので、ぜひご覧ください。

さて、先週の文部科学省の中央教育審議会にて次期学習指導要領に向けた論点整理が出されましたが、その中でも「**社会に開かれた教育課程**」の重要性が引き続き述べられています。「社会」とは、子どもの身近なところでいうと「地域」。その「**地域に開かれた学校**」を、あらためて目の当たりにしたのが、先日の日枝神社例大祭での一コマでした。日枝神社は本校のすぐ隣にあり、本校の開校よりもさらに歴史のある神社です。今年度は2年に一度の「本祭り」で、江戸時代に「吉田新田」として新田開発された各町内の神輿が神社に集まりました。神社前の道に入りきれない神輿は、本校の校庭に待機しました。全部で26基の神輿。最も多いときでは100基にも及ぶ神輿や山車が、本校の校庭に集まったそうです。そして来年度は蒔田地区の杉山神社で本祭りが開催されます。



学校教育目標として目指している「**生き生き日枝っ子**」の姿は、このような「**地域に開かれた学校**」においてよく見られています。今年度もすでに多くのクラスが地域に出かけたり、地域の方が来られたりして学びを深めています。多くの方と触れ合いながら学ぶこと



で相手意識が高まり、子どもたち一人ひとりが「**自分ごと**」になって学びに没頭します。ちょうど本日も、2年生の子どもたちが中途障害者地域活動センター「フレンズ南」にワクワクしながら出かけていきました。なかまの学習で自分たちがつくったものを、渡すのだそうです。

社会や地域とのつながりの中で学ぶことで、「**自分の力で人生や社会をよりよくできる**」という実感を持つことができます。このことは、変化の激しいこれからの社会において、子ども自身で困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。授業参観の日で開催された第2回学校運営協議会でも、「**地域と連携した学び**」が充実していることについて、委員の皆様からお褒めの言葉をいただきました。これからも、さらなる「**地域に開かれた学校づくり**」に向けて、引き続き、温かいご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。